

# 無火災目指し消防団が団結



①小雪の降る中堂々とした分列行進を披露する消防団②社会体育館で行われた出初式③訓示する統監の鈴木重男町長

令和5年葛巻町消防出初式は1月8日、社会体育館を主会場に開催され、町消防団(橋本秀雄団長)、町婦人消防協力隊(村中千鶴子隊長)など関係者約320人が参加しました。

統監の鈴木重男町長は、整列する消防団の観閲を行い「消防団、婦人消防協力隊の皆さんの献身的な活動に敬意を表します。今年1年無火災を実現できるよう、より一層のご尽力をお願いします」と訓示しました。また、橋本秀雄団長は「昨年の大震災では、団員の協力により人命を損なうことなく被害を最小限に食い止めました。今年も消防団が一丸となり防災に取り組んでいきましょう」と団員を鼓舞していました。

その後団員らは地域住民が見守る中、JR葛巻駅から葛巻小学校まで規律正しい分列行進を披露し、防火意識の高揚を図りました。

## 自治会長として長年の功績

### 総務大臣から表彰

本宮正志さん(車門)が「地縁による団体功労者総務大臣表彰」を受賞し、12月23日、鈴木重男町長から表彰状が伝達されました。本宮さんは、平成16年4月から9期18年にわたり車門自治会長を務められ、鍾乳洞・明神穴を探索する「明神穴まつり」では東京都の大学生との連携を継続的に行い、地域住民と地域外の若者の交流と世代を超えたコミュニティの形成に尽力されました。

本宮さんは「自治会を最優先に考えて活動し、苦勞もあつたが表彰をいただけて皆さんに感謝している。若い世代との交流は地域住民が元気になるので、コロナ禍が収束したら明神穴まつりを再開したい」とさらなる地域活性化を願っていました。



本宮正志さん(73歳・車門)

## くずまゝへの移転契機に

# 町が盛岡信金と協定締結

1月23日、町は盛岡信用金庫と地域包括連携協定を締結しました。盛岡信用金庫葛巻支店は5月にくずまゝへの1階に移転予定で、施設が持つ複合的な機能のうち金融の機能を担い、町民の利便性の向上が期待されています。

これを契機として、町と盛岡信用金庫の連携を一層強化して地域活性化を図るとともに、地域課題の解決に向けたサービスを提供する目的で協定を締結しました。

締結式で盛岡信用金庫の浅沼晃理事は「盛岡信用金庫の信念である地域密着の姿勢をさらに強化しよう」と、葛巻町と協定を締結することになりました。新庁舎の同じ屋根の下になることで家族のような強固な関係を築き、町の発展のために共に汗を流して地域に貢献したい」と抱負を述べました。また、鈴木重男町長は「民間の立場から町の課題解決に温かい支援をいただけることに感謝します。くずまゝで一緒に仕事ができることを歓迎し、深い信頼関係の下で相互に発展していきましょう」とあいさつしました。



協定書を手にした盛岡信用金庫浅沼理事長(左)と鈴木町長

町と盛岡信用金庫は今後、地域産品の販路拡大、交流人口や関係人口の増加、観光促進、地域の見守り支援など多様な分野で連携、協力を図ります。

## 県学校給食調理コンクール

# 町給食センターが最高賞に

### 受賞した給食



ごま酢和え

葛巻高原牛の和風かみかみグラタン

干し菜汁



栄養教諭の吉田亜希子さん(中央)と調理員の鈴木裕子さん(左)と緑川真奈美さん

町給食センターは1月6日、県学校給食会(盛岡市)で開催された県学校給食調理コンクールで最高賞の県教育長賞を受賞しました。

受賞したのは、栄養教諭の吉田亜希子さんが考案し、7月に実際に給食に提供された献立です。主菜は牛すね肉やゴボウなどかみかみごたえのある食材を使用した「葛巻高原牛の和風かみかみグラタン」、副菜は小松菜、キャベツ、わかめの「ごま酢和え」、汁物は郷土食の「干し菜汁」です。肥満傾向が高い町内の児童生徒が、よくかむことで満腹感を得て肥満防止につながるように考えられました。コンクールでは、給食業務を担う(株)メフォスの緑川真奈美さんと鈴木裕子さんが調理を担当。かみごたえが出るよう食材の切り方にもこだわりました。

吉田さんは「よくかんで食べるためには丈夫な歯が必要で、カルシウムも十分に摂取できるように考えた。高く評価をいただけて嬉しく、これからもおいしい給食を子どもたちに届けたい」と話していました。また、緑川さんは「給食センターの日頃のチームワークをコンクールで発揮できて良かった」、鈴木さんは「衛生面などに気を付けて、今後も安全な給食を作っていきたい」と共に受賞を喜んでいました。